

# ふーぬ風

発行 〒901-1115  
沖縄県南部農業改良普及センター  
TEL : (098) 889-3515  
FAX : (098) 835-6010

## 南部地区の一層の農業振興をめざして 新体制で平成23年度の普及活動をスタート



南部農業改良普及センター管内は14市町村からなり、農業生産の盛んな地域です。管内では、さとうきび、野菜、豚、花き、乳用牛などの生産が盛んです。近年、地下ダムの整備をはじめ、農地及び近代化施設の整備、農業機械施設の導入などが図られ、生産基盤は充実しつつあります。しかしながら、農業者の高齢化や担い手不足、生産資材の価格高騰、農産物価格の低迷など、農業を取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。

このような中、担い手の育成確保や栽培技術の高位平準化、生産・出荷体制の強化、生産コストの削減、作業の省力化、環境に配慮した農業生産の実現、農地流動化による規模拡大、防災農業の確立など、取り組むべき課題は山積しています。

このような状況を踏まえ、平成23年度は以下の課題に重点的に取り組みます。

### 1. 安定的な農業の担い手育成

新規就農者や認定農業者の技術・経営改善、農業青年クラブや農業士等組織活動の充実強化、就農女性の経営参画促進などを支援します。

### 2. おきなわブランドの確立に向けた産地育成

野菜、花き、果樹、甘しょ等の拠点産地の育成や、さとうきびの増産、畜産の生産供給体制の強化などを支援します。

### 3. 環境と調和した農業生産活動支援

エコファーマーの育成、施肥の適正化、農薬の適正使用、食の安全・安心の確保などの取り組みを強化します。

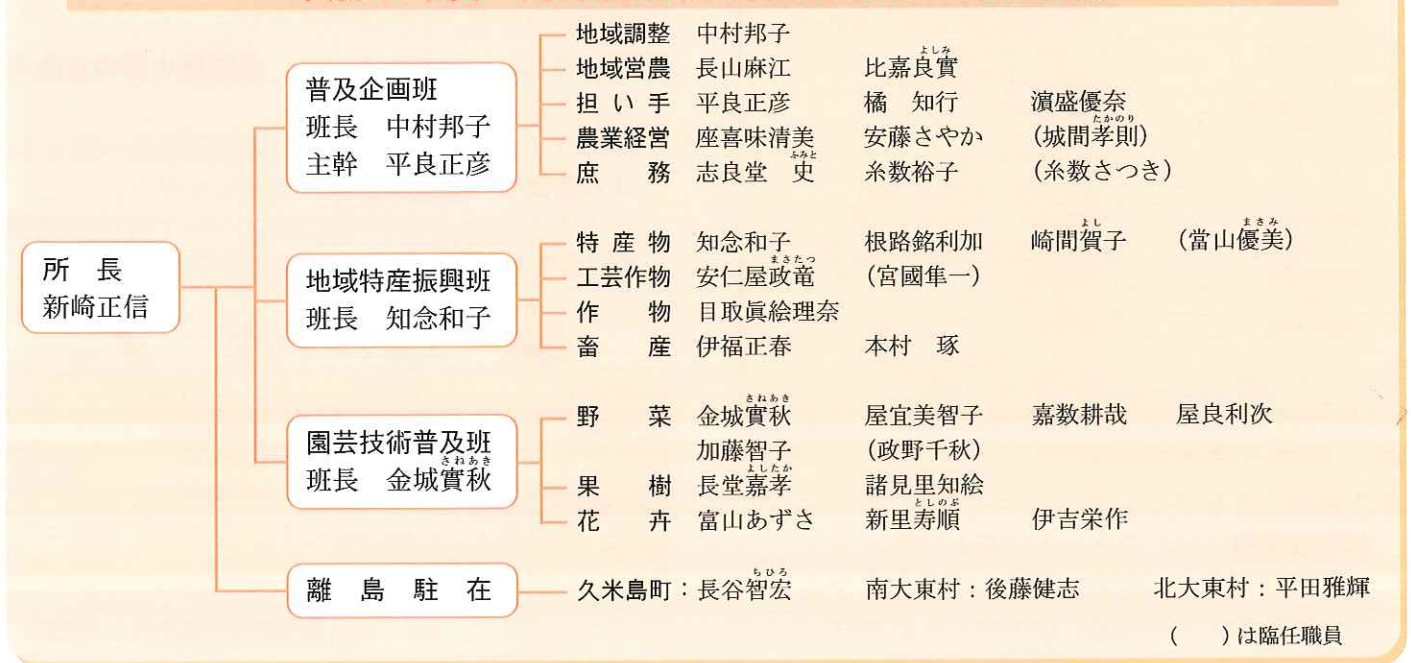
### 4. 地域資源活用による農村振興支援

地産地消の推進、都市・農村の交流による地域活性化、地域特産物の活用、島野菜の産地化を支援します。

これらの課題解決にあたっては、生産農家を始め、市町村、JAの関係機関・団体と密接に連携し、職員一丸となって取り組んで参ります。関係者の皆様には、今後とも農業改良普及事業へのご支援・ご協力をお願い致します。

(南部農業改良普及センター 所長 新崎正信)

## 平成23年度 南部農業改良普及センター活動体制





# 受けてみませんか、土壌の健康診断を！

～6月6日より平成23年度土壌分析週間スタート～

## 1 土づくりの意義について

近年、エコファーマー・特別栽培・GAP（農業生産工程管理）など消費者の安全・安心に対する関心の高まりとともに、環境に配慮した農業がますます求められております。

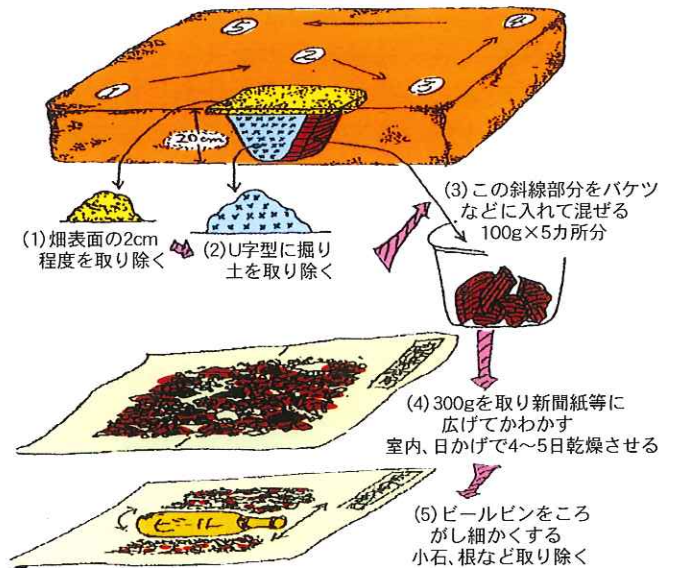
そのためには、作物本来の『基礎体力（樹勢）の維持による健全な生育』が前提であり、畑の健康状態を知ることは、「品質向上・増収」のみでなく「減農薬」等の対策においても非常に重要です。

平成22年度には南部管内において、1,323点の土壌分析を実施いたしました。

※ 平成23年度の土壌分析日程

- ①日時：6月6日～10日  
場所：南部普及センター  
品目：南部管内の花き全般
- ②日時：6月13日～17日  
場所：JAおきなわ糸満支店  
品目：JA糸満・小禄支店管内の野菜、果樹・サトウキビ等（花きを除く）
- ③日時：6月20日～24日  
場所：JAおきなわ大里支店  
品目：JA糸満・小禄支店管内以外の野菜、果樹・サトウキビ等（花きを除く）

- ②土壌を取る深さ：根の多い15～20cm付近より取る。
- ③土壌を取る位置：圃場別に圃場内の数ヶ所を偏りなくとって混ぜる。 ※これを圃場ごとに行う
- ④土壌の量：乾燥させ、篩いにかけて土を約100～300g（コップ一杯程度）取る。
- ⑤同圃場内における生育差を確認する場合 土壌養分等にムラがあると思われるので、偏りを確認したい場合は、正常な位置、異常な位置を分けて取り、提出も別々にする。



## 2 分析項目について

以下の8項目について分析します。

【分析項目】	【単位】	【項目の意味】
		【数値から判ること】
土壌酸度 (pH)		肥料の溶け具合を左右(作物毎の適正值) 土壌中の酸度、養分の吸収に影響する
電気伝導率 (EC)	ms/cm	水に溶けた肥料濃度 多施肥や塩類集積等の目安
陽イオン交換容量 (CEC)	me/100g	土壌の胃袋の大きさ 保肥力の大小
腐植	mg/100g	土の生産力のもと 土質の改善や微量元素の補給
交換性石灰 (CaO)	mg/100g	交換性陽イオンのカルシウム量 タンパク質合成や細胞壁合成に関与
交換性苦土 (MgO)	mg/100g	交換性陽イオンのマグネシウム量 光合成に関与
交換性加里 (K <sub>2</sub> O)	mg/100g	交換性陽イオンのカリウム量 作物体内の機能調節に関与
トルオーグリン酸 (P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> )	mg/100g	根酸で溶けるリン酸量 成長・エネルギー代謝に関与

## 3 分析土壌の取り方

- ①土壌を取るタイミング  
作物収穫後におこなうことが基本です。  
※次期作物の基肥前（前作収穫後のすき込み耕耘後すぐが最適）に土をとるとよい。

## 4 土の提出方法

- ①提出期限は分析月日の1週間前までに提出（地域によって分析月日が異なるので事前に確認）する。
- ②所定の「土壌サンプル票」に記入のうえ、土と一緒に提出する。
- ③分析件数に限りがあるため、必要最小限の点数を提出する。
- ④提出はJA各支店に行い、土壌診断結果の配布もJA各支店（生産部会等）を通して行う。（JA生産部会員・組合員以外については南部農業改良普及センターにおいても受け付けております。）



### 土壌サンプル票



①【耕作者名】	【住所】	【畑場所】
②土壌の種類	(国頭マージ・ジャーガル・島尻マージ)	【連絡先(TEL)】
③作物名	【次期作物】 ※後作・作物転換のみ記入	【露地・施設】
④作物育成状況 (良好・悪い)	※樹勢が弱い等記入	
⑤その他	以前(又は現在)あった土壌の問題などを記入してください	





# 環境にやさしい農業、はじめませんか。



環境保全型農業を推進するために、下の表のとおり化学肥料、化学合成農薬の低減割合などにより、エコファーマー、特別栽培農産物および有機農産物の3つの認証制度があります。

## 環境保全型農業を推進するための認証制度

	エコファーマー	特別栽培農産物	有機農産物
技術的内容 化学肥料・化学合成農薬の低減割合	3割減	5割減	10割減
認定機関	県	県等	登録認定機関等
認定対象	人（農家）計画	物（未加工の野菜や果実、乾燥調理した穀類、豆類、茶など）	物（飲食品、農産物農産物加工品等）
有効期間	5年	1年（更新有り）	取消を受けない限り
マーク	有	有	有

## エコファーマー認証制度について

平成22年度、南部地域では新たに31件のエコファーマーが認定され、南部地域全体では281名のエコファーマーがいます。これは、県全体のエコファーマーの約6割に相当します。

平成23年度のエコファーマー申請時期は、7月・10月・1月の年3回です。エコファーマーになりたい方、また認定期間が今年度で終わる方（再認定対象者）は、申請時期までに各市町村へ申請書類等を提出して下さい。

エコファーマーになるには、以下の要件が必要です。

- ①土づくりの実施
- ②沖縄県内での平均的な栽培方法（慣行栽培）と比べて、化学肥料の窒素成分量の3割削減
- ③沖縄県内での平均的な栽培方法（慣行栽培）と比べて、化学合成農薬の使用回数の3割削減
- ④毎年、土壌分析を受ける
- ⑤作業日誌をつける

※エコファーマー申請及び実績報告には土壌分析結果や作業日誌の添付が必要です。忘れずに受診、日誌の記帳をしましょう。

## エコファーマーマーク、きちんと使っていますか？

エコファーマーマークは、エコファーマー認定を受けた農家のみが使えるマークで、以下の注意点が守られているか確認しましょう。

- ①認定した県名（沖縄県）、認定番号又は使用者の氏名は表示されていますか。
- ②部会名を表示している場合、部会の構成員が全てエコファーマー認定を受けていますか。
- ③マークのデザイン、縦・横比、色を変更して使っていませんか。
- ④マークの書体、文言を変更して使っていませんか。
- ⑤「有機」、「無農薬」等、消費者に誤解を与えるような表現を使っていませんか。

マークには、使用基準・規程が定められています。適正にマークを使用しましょう。

## 特別栽培農産物認証制度について

特別栽培農産物とは、「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に基づき、沖縄県内での平均的な栽培方法（慣行栽培）と比べて、

- ①化学合成農薬（節減対象農薬）の使用回数
- ②化学肥料の窒素成分量

をそれぞれ5割以下に減らして栽培された農産物のことです。エコファーマー認証制度の3割減に比べ厳しい条件ですが、より環境にやさしい栽培方法です。

今年度から、生産登録申請が年3回に増え、エコファーマーの申請時期と同じように7月・10月・1月が申請時期となっています。詳しくは、南部農業改良普及センター又は県の営農支援課までお問い合わせ下さい。

（地域特産振興班 當山）





# 平成23年度「さとうきびの日」関連行事

## 4月の第4日曜日は「さとうきびの日」です

南部地区のさとうきびは近年、農家と関係機関の努力により増産傾向にありますが、肥培管理不足や粗放栽培も一部見られます。また、沖縄の基幹作物であるさとうきびですが、近年都市化により住宅との混在化が進んでいることから、県民に広くPRする必要があります。このため、生産農家ならびに、関係機関が一丸となりさとうきびの日関連行事が次のとおり開催されました。

### 1. 南部地区「さとうきびの日」関連行事

今年の南部地区「さとうきびの日関連行事」は八重瀬町の具志頭さとうきび生産組合、東風平さとうきび生産組合および南部地区さとうきび生産振興対策協議会の共催で4月27日に八重瀬町具志頭農村環境改善センターで開催されました。

今回の目的はさとうきび生産振興と農薬適正使用の周知で、講演会と圃場での農薬の適正散布法の実演を行いました。講演会は、①さとうきびと県民との関わり②ユニークなさとうきび作で増産を目指す(県内各地の事例から)③農薬適正使用について④経営安定対策についてでした。

講演会后、現地実演として近隣圃場で普及指導員が、農薬飛散軽減のための散布ノズルカバーの紹介・散布方法の実演を行いました。つづいて農薬会社2社が除草剤の種類と効果の説明およびガイダー防除を中心に粒剤スプレイヤーを使った効率的で飛散させない散布法の実演が行なわれました。



具志頭さとうきび生産組合長の挨拶



農薬散布実演の様子

### 2. 粟国村「さとうきびの日」関連行事

粟国村では処理能力が向上した新工場の建設に伴い原料増産の必要性が増しており増産気運を高める必要があります。

粟国村の「さとうきびの日」関連行事は4月28日に粟国村の製糖工場のヤードで実施されました。

粟国村長・JA粟国支店長の挨拶後に、普及指導員から農薬適正使用と沖縄県さとうきび競作会の多収農家の肥培管理事例の説明を行いました。その後圃場に移動し害虫ごとの農薬適正散布法とさとうきびの株出し管理機の実演を行いました。



害虫防除法の説明(粟国村)

昨年度の南部地区は台風の影響は少なかったのですが、日照不足などにより減産となりました。農家、関係機関がより一層連携し、農薬適正使用に努めるとともに、さとうきびの増産に取り組んでいきましょう。





# 北大東島農業通信

**さとうきび** 北大東島の基幹作物であるさとうきび生産は、北大東島の経済はもちろん、農地の保全、農村の良好な景観の形成など、農業のもつ多面的機能の発揮にも大きく貢献している重要なものです。

平成22/23年期のさとうきび生産実績は、表1のとおり、17,573tの生産量でした。

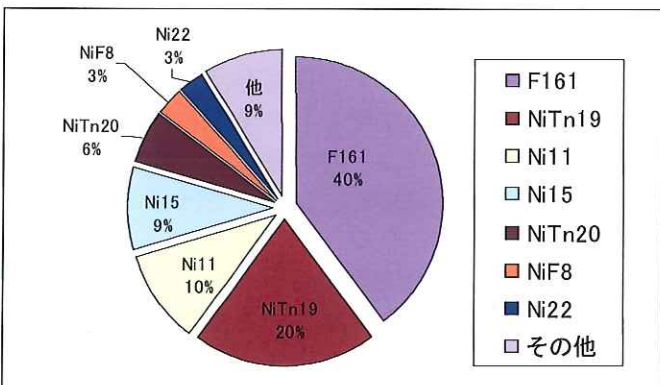
表1：平成22/23年 北大東村さとうきび生産実績

作型	面積(a)	反収(kg)	生産量(t)
夏植え	1,145	5,514	631
春植え	8,770	4,116	3,610
株出し	30,589	4,346	13,295
全体	40,504	4,330	17,537

(資料：北大東製糖株式会社)

また北大東村における平成22/23年収穫の品種構成は、図1のとおりF161が40%を占めています。

図1：平成22/23年 品種別収穫面積比率



(資料：北大東製糖株式会社)

作況は昨年10月に来襲した台風14号により大幅な減産が予想されましたが、農家の適期管理実施や適度な降雨があったことから、前年同期より約2,000トン多い生産量でした。

感心が高い品種の特性は、『風折抵抗性』、『黒穂病抵抗性』、『発芽率』及び『早期高糖性』であり、今後の普及活動に反映しようと考えています。



ハーベスタによる収穫風景

**バレイショ** さとうきびとの輪作作物であるバレイショの平成22/23年産生産実績は、表2のとおり161tの生産量でした。

表2：平成22/23年 北大東村バレイショ生産実績

面積(a)	反収(t)	生産量(t)
970	1.7	161

(資料：JAおきなわ北大東支店)

生産農家全員がエコファーマーに認定されており、①バレイショ後はさとうきびを新植して輪作を徹底する、②緑肥を活用して圃場へ有機物を投入するなどを生産部会で取り決めています。このような部会の地道な取り組みが、エコファーマー認定の基盤づくりにつながっています。



エコファーマーの新バレイショ バレイショ育成状況

**カボチャ** カボチャも輪作作物として生産されており、平成22/23年産の生産実績は表3のとおり、41tの生産量でした。

表3：平成22/23年 北大東村カボチャ生産実績

面積(a)	反収(t)	生産量(t)
618	0.7	41

(資料：JAおきなわ北大東支店)

生産農家は季節風対策に最も力を注いでおり、防風垣にさとうきびを活用する技術が普及しています。また部会のチームワークが強く、頻りに部会員同士でお互いの圃場見学を行い優良技術の習得に努めています。



部会員同士で圃場見学

さとうきびの防風垣に守られたカボチャ

(北大東駐在 平田)



# 南城市さやいんげん拠点産地認定!



平成23年4月27日に南城市のさやいんげんが拠点産地に認定されました。認定交付式は農林水産部長室で行われ、認定証が比嘉農林水産部長から古謝市長へ手渡されました。

南城市のさやいんげんは、作付面積66.1ha出荷量581.5t(H21)で県内生産量の40%を占め県内1位の産地です。生産農家の宮平さんは「長年待ちかねていた拠点産地の認定が決まり、私たち農家は大変喜んでます。これを機会により一層品質向上、生産向上に努め、また、担い手の育成や新規農家の育成も頑張りますので今後も支援をお願いします」と喜びを語った。引き続き意見交換会が行われ、さやいんげんの市場動向や今後の展開について質疑応答が行われました。

南城市は、これまで知念地区、大里地区、玉城地区にさやいんげん産地協議会が設立され、知念地区、大里地区が拠点産地の認定を受けていました。今後

は南城市野菜産地協議会として一つになり市全域への技術の平準化、規格の統一等、南城市さやいんげんブランドの確立に向けて取り組み、平成26年目標で面積73.5ha、出荷量700tを目指しています。



(普及企画班 平良)

新規就農者  
紹介コーナー

## がんばれ! NEWファーマー —仲間づくりからはじめる新規就農—

南城市大里の山間に広がる農地で植付作業に没頭していたのは、NEWファーマーの富名腰泰裕さん(30歳)。サヤインゲン、ゴーヤー、オクラ、マンゴー及び薬用作物の拠点産地である南城市で葉菜類(50a)を栽培しています。

他産業に従事していた富名腰さんは、「農業で自立し生活している人は大勢いるはずだが、農業の暗い話もよく聞かされた。そこで、“自分が農業をなんとかしよう”という思いと興味がわいた」と就農の理由を話す。農業への新規参入を目指して、沖縄県立農業大学校に入学し、卒業後「農家実務研修」により実践的知識の習得に励んできた。

今年4月から本格的に就農するにあたっては、「苦楽を共に相談出来る仲間づくりに努めました。南城市農業青年クラブに加入したことで、定例会等を通



して交流を図っています。農業をはじめるとは、資金的、技術的にも大変なことが多かった。今後、就農を予定している方は、周辺農家や先輩農家と悩みを相談できるよう積極的に交流してほしい」と話していました。

現在、農産物を特別栽培として申請しており、「生産と流通を一体化させた農業の実施、収益性の高い農業経営を目指したい」と力強く語っていました。



(普及企画班 橘)



## 南部地区農業士会 定期総会の開催

南部地区農業士会の平成23年度定期総会及び研修会が5月13日(金)に南部農業改良普及センター会議室にて開催されました。会員約20名が出席し、平成23年度活動計画案、予算案及び新役員等が承認されました。会長の普天間春行氏は「東日本大震災の影響で厳しい状況ですが、みんなで負けずに頑張っていきましょう！」とあいさつし、会を盛り上げました。

総会終了後には研修会が開催され、昨年度新たに青年農業士・指導農業士及び女性農業士に認定された安次富齊氏、新田眞佐樹氏、仲里峯子氏が事例発表しました。沢山の質問が飛び交い大変有意義な研修会となりました。



### 新役員紹介



会長 長嶺幸雄氏  
(豊見城市)



副会長 熱田 守氏  
(南城市)



書記会計 新垣信子氏  
(南城市)



理事 宮平 聡氏  
(南城市)



理事 大城清子氏  
(南風原町)

新役員の皆さん  
今年度も頑張ってください！！

(普及企画班 濱盛)

## ～南部地区農業青年クラブ連絡協議会 定期総会の開催～

平成22年度南部地区農業青年クラブ連絡協議会の定期総会が4月28日(木)に開催され、クラブ会員27人と各関係機関が集まる中、全ての議案が承認されました。

総会では、会長が「こんなに多勢が集まってくれてうれしい。今年度も魅力ある活動が実施できるよう企画と運営に努めるので、総会だけでなく引き続き参加をお願いしたい。」とあいさつし、会員が団結した取組を意識づけました。

また、県連事務局次長の仲宗根正人氏(沖縄市)から「今年4月から各地区及び市町村の総会に参加してきた。県連としても各地区における積極的な活動に協力していきたい。お互いに頑張りましょう」と激励のあいさつがあり、県連との連携を呼びかけました。



### 新役員紹介



会 長 高橋 正弥氏  
(南風原町農業青年クラブ)



副会長 前田 大輔氏  
(南風原町農業青年クラブ)



事務局長 富名腰 泰裕氏  
(南城市農業青年クラブ)



理 事 神里 智幸氏  
(南風原町農業青年クラブ)

(普及企画班 橘)



# 定期人事異動・フレッシュマン紹介



## 定期人事異動

### ☆大変お世話になりました

東恩納 良徳 (退職)

真栄城 悦子 (退職)

神谷 シズ子 (退職)

桐原 成元 (中部農業改良普及センターへ)

神村 亜矢子 (営農支援課へ)

上地 暢 (北部農林水産振興センターへ)

城間 久美子 (宮古農林水産振興センターへ)



平成23年1月6日

### ☆よろしくお願ひします

金城 實秋 (八重山農林水産振興センターから)

知念 和子 (八重山農林水産振興センターから)

富山 あずさ (北部農林水産振興センターから)

屋良 利次 (糖業農産課から)

濱盛 優奈 (八重山農林水産振興センターから)

後藤 健志 (北部農林水産振興センターから)

伊吉 栄作 (新採用)



はじめまして。4月から南部農業改良普及センターで野菜担当となりました屋良利次です。

これまで農業研究センター、糖業農産課などで勤務してきましたが、今回初めて普及センターへの配属となりました。これまでの業務と違い、農家の方との距離が近いので、生産現場を直に見ることができると思っています。南部地域は野菜の主産地で品目も多いですが、これまでの経験をかしながら、業務に取り組んでいきますので、宜しくお願いします。(園芸技術普及班 屋良)



みなさんはじめまして。南大東駐在の後藤健志です。3月までは、北部普及課で水稻と茶の担当をしていました。南大東村では、関係機関と連携しながら地域の農業振興に取り組んでいきたいと思っています。宜しくお願いします。



(南大東村駐在 後藤)

みなさんはじめまして。今年度から南部普及センターで農業士と女性担い手の担当になりました、濱盛優奈です。昨年度までは八重山農林水産振興センターにいましたが、同じく女性担い手を担当していました。八重山での経験も活かしながらみなさんと一緒に南部の農業を楽しく盛り上げていきたいと思ひますので、宜しくお願いいたします。(普及企画班 濱盛)



はじめまして。4月から南部農業改良普及センターで花きを担当することになりました伊吉栄作です。普及員としても社会人としても1年目の新人ですが、地域の農業振興に貢献できるよう努力していきたく思ひます。宜しくお願いします。



(園芸技術普及班 伊吉)